

ストーブの火が恋しい季節となりました



ストーブ火災に気をつけましょう

北国の冬の生活に欠かすことのできないストーブ。

身も心も暖めてくれるストーブですが、使い方を誤ると、家や思い出がいつぱい詰まった家財、また尊い人命までも奪ってしまう火災の原因にもつながります。

冬の足音が聞こえてくる季節となりましたが、本格的な稼働の前に、今一度、ストーブなどの暖房器具のチェックをお願いします。

ストーブ火災は人災 ストーブ火災の実態

平成14年度に全国で発生した火災の中で、ストーブによる火災は1,782件。前年度と比べると192件(9.7%)減少していますが、少ない数字とは言えません。ストーブの種類別では、石油ストーブによる火災が最も多く、1,189件発生しています。(全体の66.7%)二番目に多いのは、一般的には安全と思われている電気ストーブが原因の火災です。

どちらもほとんどの火災発生原因は、ストーブの周りに置いてある燃えやすいモノでした。これは人災です。誰もが知っている、「火の近くには燃えやすいものを置かない」という鉄則さえ守っていただければこれらの火災は発生しなかったのです。

長く使用したストーブは、内部に煤(すす)などがたまっていきます。燃烧室の網や芯の部分にたまった煤は異常燃烧の原因にもなります。また、ファンヒーターの場合は内部のホコリも目詰まりや異常燃烧の原因となるので、ストーブは定期的に清掃・交換することをお勧めします。

寒い季節は洗濯物が乾きにくいので早く乾かすために、ついストーブの真上や近くで洗濯物を乾かしてはいませんか？
洗濯物は乾いてくると軽くなります。そして、乾くということは、可燃性もよくなること。ストーブの上に干したままにしていると、熱によって暖められた空気が上昇気流となり、ひらひらと揺れてしまうことがあります。
しっかりとハンガーにかけてあったはずの洗濯物が落ちて、万がーストーブの上に……。このようなことが実際に多く発生しています。危険なので、絶対にやめましょう。

ストーブ火災 危険度チェックリスト

| | |
|--------------------------|------------------------------|
| <input type="checkbox"/> | ストーブがカーテンや家具・布団などに近づいていないか？ |
| <input type="checkbox"/> | 耐震自動消火、給油時自動消火などの安全装置は付いてるか？ |
| <input type="checkbox"/> | 燃烧筒はきちんとセットしているか？ |
| <input type="checkbox"/> | 炭化したモノが内部に付着していないか？ |
| <input type="checkbox"/> | 空気の取り入れ口のフィルターにホコリは付いていないか？ |
| <input type="checkbox"/> | 使用中、炎があがることはないか？ |
| <input type="checkbox"/> | 洗濯物や燃えやすいものは、近くに置いてないか？ |
| <input type="checkbox"/> | ポリタンクは灯油専用か？ |
| <input type="checkbox"/> | カートリッジタンクのフタは、きちんと閉まっているか？ |

これだけは守ろう！

| | |
|--------------------------|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> | 洗濯物を乾かすなど、乾燥機代わりに使用しない！ |
| <input type="checkbox"/> | 外出時には必ず完全に消火していることを確認する！ |
| <input type="checkbox"/> | 取扱説明書をよく読んで正しい使用方法で使用する！ |
| <input type="checkbox"/> | 給油や持ち運びは、火を消してから行う！ |
| <input type="checkbox"/> | スプレー、ガソリンなどの引火性のものをストーブの近くに置かない！ |
| <input type="checkbox"/> | 棚や家具の上から、ストーブの上に落下するものがないか確認する！ |